

## 相手がどう受け止めたかを考えさせる ～「いじめ問題」～



中1までは元気はつらつで集団の中心にいたA子は、いじめっ子的存在でもありました。中2になるといじめにあっていた子の逆襲に合い、すっかり弱々しくなり昔の面影をなくし、学校に来て別室登校するようになってしまいました。

学級に入りたいのに入れない。悶々として苦しみながら、A子にはどうしても納得がいけないことがあったのです。それはみんなから「A子にいじめられ、ひどい目にあっていた」と言われたことでした。とりわけショックだったのは仲良くしていたB子から、いきなり「あなたのせいで小学校の時に不登校になったことまである」と言われたことです。彼女自身には「いじめていた」という自覚がなく、そういわれたことに対して怒っていました。少しは自覚があったのかもしれませんが、しかし、「いじめっ子だった自分」を決して認めようとしませんでした。このようなケースのいじめ問題は、どのように対処すべきなのでしょう。

いろいろと話を聞いていくうちに、B子をにらんだり、怖いと怯えるB子に対して、ウジウジしていないで「なによ、言いたいことがあったら、はっきり言えばいい」と言っていたことに気づきました。A子にとっては、はっきりしないB子の性格を直そうと思っての行為だったようなのです。そして今、C子に怯え教室に入れられない自分。A子は自分のこれまでの行為や今の置かれている状況、即ち、いじめられている側の気持ちを理解することができたのです。

「動機はどうあれ、いじめは悪いんだ」と決めつけて責め立てると不貞腐れるだけで何も変わりません。いじめがもっとひどくなることもあります。何事もそうですが、いじめ問題はいじめた本人が心から納得しないと解決しません。本人が心から納得して、はじめて解決の方向に動き始めます。悪意ではなかったとはいえ、自分が相手に打撃を与えていることははっきりと分かってもらわなければなりません。でないといじめ行為そのものまで認めているかのような印象を与えるかもしれません。そうなったら、教師がいじめに加担したことにもなります。「心根が正しかったこと」と「行為が正しかったかどうか」は別のことです。そして大事なことは、「相手の身になって考えさせる」ことなのではないでしょうか。（出典：「たのしい授業」仮説社）

## 特別寄稿 「居場所があるということ」

新庄中学校 校長 笹原啓一氏

「校長の仕事は学校の中に生徒全員の居場所をつくること」。生徒みんなが学校の中に居場所を持っていること、その中で安心して過ごし学習や活動ができること、これは私たち教師、そして保護者の一番の願いだと思います。

しかし、さまざまな事情からどうしても学校に居場所を見つけることができない生徒、教室では安心して過ごすことができない生徒がいます。そうした生徒を私たち教師がどのように支えたらいいのか、その都度いろいろなことを考えます。

3年前新庄中に赴任したとき「シャイニングクラス」に通っている生徒がいました。不登校になったいきさつは職員から聞いたものの、何でこの生徒が不登校になったのだろうと思ってしまう生徒でした。時々「シャイニング」にお邪魔すると笑顔で迎えてくれます。表面的に明るく振舞っている生徒でもやはり日々複雑な思いや悩みを抱えているという現実があります。私たちはそのような生徒にも居場所となるような、しかも将来の進路選択にプラスになるような居場所の選択肢を用意することも迫られていると考えます。

さて、前述の生徒は？ というところではほとんど休むことなく3年生に進級し、高校卒業後の進路も決



まったということでした。居場所を見つけ、将来に繋げた彼女に心から拍手を送りたいという思いです。

「学校は行かねばならないところ」「教室は居なければならぬところ」という思い込みはなくしたいものです。生徒一人ひとりの成長の度合いや悩みの種類も深さも異なる中で、シャイニングクラスを活用させてもらうことも選択肢のひとつと考えています。

## 感謝の気持ちを伝えられたかな「いも煮会」

実りの秋・収穫の秋。畑の先生をお願いしている五十嵐さんのご指導のもと春に植え付けたサトイモが収穫の時期を迎え、10月15日に4人が参加して「収穫」を行いました。野外活動の時いつも心配している天気にも恵まれ、掘ったり、洗ったり、時間内でわいわい楽しみながら、たくさんのサトイモとサツマイモを畑から頂きました。イモ洗いや袋詰めをしているともう昼。なかなか他人との関わりが苦手な通級生にとって、購入のお願いはとても勇気が必要な体験です。しかし、今年はサツマイモのみの販売でもあり、東庁舎のみで、3年生が先頭になって行動しすぐに完売しました。その後食べた昼食はとても美味しく、笑顔いっぱい。

そして、21日にサトイモの皮むきと買い出し。翌22日に醤油味と味噌味のいも煮づくり。3年生を中心にサトイモや肉、ネギを切ったり、こんにやくをちぎったり、肉を炒めたりととても手際よく料理しました。常日頃協力下さっている方々が会場に見えました。少しぎこちなく、照れくささを隠しながら席に案内して「ありがとうございます。醤油味と味噌味のどちらがいいですか。」と尋ねます。

全員の前に芋煮が配られ、各自一役のセレモニーが始まりました。きっと心の中はバクバクでしょうが、涼しげな顔で進めます。多くの方々の助けを頂いてできた感謝の気持ちの「いも煮会」は盛会に終えることができました。

得意なことは勿論、苦手なことも克服して成し遂げたサトイモやサツマイモ等の栽培といも煮会はきっとシャイニング生を何歩か成長させたものと確信しています。多くの方々の協力のお蔭です。ありがとうございました。そして、ごちそうさまでした。



サツマイモは30kgの収穫  
サトイモは 11.7kgの収穫



サトイモ、サツマイモの収穫 (10/15)

## あとがき

10月16日の「気楽に話し合う会」。不登校生を抱え悩まれている(悩んでいた)お母さん方の会話です。「朝、ベットから引きずり起こしたこともあった。本人が一番苦しんでいるのは分かっていたが、どうしたらいいか分からなかった。母親の自分が焦ってはいけなことも分かっていたのに。あの頃家族の誰か一人でも分かってくれる人がほしかった。疲れて登校させることを諦め「学校に行け」と言うのをやめたら子どもも落ち着き、私自身気が楽になった。きっと本人は行かないことで気持ちの安定を図っていたのじゃないか。学校に行かないという本人の選択は、次のステップに歩みだす力を蓄える時間だったのかも知れません。この子にはこんな時間が必要だったのでしょね。本人がどう自分の将来につなげていくか。毎日楽しそうに高校に通っているあの子が不登校だったなんて信じられないんです。」

## 10月の活動 シャイニングクラスの在籍6名

### < シャイニングクラスの学習 >

- 月曜日 理科、国語 ○ 水曜日 社会、英語
- 金曜日 数学、体育 ○ 木曜日 体験活動

#### ◆体験活動⑫ 10月15日(木)

「サトイモ等の収穫・販売」

#### ◆体験活動⑬ 10月22日(木)

「いも煮会」(感謝の気持ちを伝える)

#### ◆「気楽に話し合う会」10月16日(金)

3名の方の参加をいただきました。



「いも煮会」のようす (10/22)

## 教育相談連絡先

- ダイヤルなんでも相談  
TEL 23-7266
- 適応指導教室(シャイニング)  
TEL 22-2111  
(内線 445、448)  
林、小野、鈴木が担当です。